なまえ【　　】

ＮＩＥワークシート／高校生～国語

この社説を250字以内で要約してみましょう。

神戸新聞 2022年07月22日 金曜日 面名 発言１ １４ 12ページ

社　説

2022.7.22

次はプロの舞台で活躍を

フィギュアスケート男子の羽生結弦選手が、五輪、世界選手権などの競技会からの引退を表明した。

記者会見でプロとしてスケートを続けることを決断したと述べ、「引退の言葉は使いたくない。ここからがスタート。よりアスリートらしく頑張っていきたい」とすがすがしい表情で語った。強い精神力で数々の逆境をはねのけ、栄冠をつかんできた選手らしい前向きな言葉だ。

絶対的な強さを誇り、世界最高峰の選手だったことは、万人が認めるところだ。五輪で二つの金メダル、グランプリ・ファイナル4連覇、世界選手権で2度の優勝など輝かしい結果を残し、最年少の23歳で国民栄誉賞を受けた。国内の競技会はもとより、国際大会で積み上げた戦績を改めてたたえたい。

とりわけ印象に残るのは、２０１８年の平昌五輪での2連覇達成だ。前年に右足首靱帯損傷などの大けがを負い、痛み止めを服用しながら、66年ぶりの偉業を成し遂げた。地元の仙台市であった祝賀パレードでは10万人以上が沿道を埋めた。本人が望んだ通り、東日本大震災の被災地の人たちを励ます快挙となった。

トップアスリートとしての向上心と闘争心を保ち、高難度のジャンプを追い求めて常に限界への挑戦を続ける姿勢は、ファンのみならず多くの国民の共感を呼んだ。16年に世界初の4回転ループに成功するなど質の高い4回転を完成させ、一時代を築いた功績は極めて大きい。

しかし酷使した身体は満身創痍だった。特に全てのジャンプで着氷するときに使う右足首に悩まされた。靱帯を繰り返し痛め、剝離骨折なども経験した。多種類の4回転に耐えられる状態ではなかったという。

それでも今年2月の北京五輪では3連覇を目指し、前人未到のクワッドアクセル（4回転半ジャンプ）に挑んだ。回転不足で転倒し、成績は4位にとどまったが、試合後に「全部出し切った。あれが僕の全て」と語った。今回の決断には誰もが納得し、拍手を送るのではないか。

五輪や世界選手権などの場に羽生選手がいなくなるのは寂しい。とはいえ、宇野昌磨選手、鍵山優真選手ら日本の選手層は厚い。宇野選手は「切り開いてくれた道を後輩や次の世代につないでいけるように頑張る」とコメントした。志を受け継ぐ彼らの躍進に期待したい。

今後プロの道を歩む羽生選手も、まだ27歳である。会見では「4回転半も成功させて皆さんと共有できたら」とし、夢への挑戦を続けると宣言した。他の選手と競うのではなく、自らの理想のスケートを追い求めるのが、目指す姿なのだろう。新たな舞台での活躍を心から願う。

羽生選手の決断